

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 4 年 2 月 26 日

事業所名 運動療育スクールjump宇部ときわ校

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用定員を遵守している。	
	2 職員の配置数は適切である	○		個別指導もできるように配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		事業所内はなるべくフラットな空間にしている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎月、事業所・個人の目標設定・振り返りをしている。	PDCAサイクルの社内研修の実施する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		1年に一度アンケートを配布し、公表・掲示・配布をしている。	資質向上のため、定期的に面談や会議を行う。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		1年に一度アンケートを配布し、公表・掲示・配布をしている。	資質向上のため、定期的に面談や会議を行う。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員会設置を検討。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修を定期的にしている。	社内研修だけでなく、外部研修も今後はより参加していく。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		面談・契約時だけでなく、定期的な話し合いを行い、改善に努めている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシート及び運動能力指標に合わせ評価を行っている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎週全スタッフでミーティングを行い決定している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		特性に配慮しながら工夫して立案している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		前日や当日のミーティング時に話し合い設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		特性・ニーズに合わせた個別指導と社会性を育むメニューを組み合わせている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援前にミーティングをして、打ち合わせを行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ミーティングや記録等で情報共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		デジタル媒体などで記録している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6カ月に一度はモニタリング・個別支援計画の更新を行う。	必要があれば随時行う。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		アセスメントやニーズに合わせ、組み合わせで支援している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が出席している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		必要に応じて行事予定や送迎時刻等の確認等の確認を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		担当者会議など、必要に応じて児童発達支援事業所と情報共有をしてい	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		今後、対象児がいる際は情報共有をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		担当者会議やブロック会議などに参加し、連携に図っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○		今後、参加予定。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用時や定期面談など直接話し合いをして要望を伺っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		受けた相談を記録して管理者に相談。以降のご利用の際に回答している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		受けた苦情を記録して管理者に相談。管理者から電話、面談にて対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを発行して、活動内容や予定をお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報ガイドラインに基づき管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		なるべく視覚的に伝えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		新型コロナウイルス感染防止にて自粛中。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		事業所内に掲示して周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		平日に避難訓練を年に4回行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部での研修に参加したり、定期的に社内研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約時に説明を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			定期的に記載している。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和 4 年 2 月 26 日

事業所名 運動療育スクールjump宇部ときわ校 保護者等数(児童数) 24 回収数 17 割合 70

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	1		2		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	13			4		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	1		4		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	16	1				
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	16			1		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	1	12		
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	16	1				
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	2		2		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		3	5	9		
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12	1		4		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15			1	※無回答 1	
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	12	2		3		
14 個人情報に十分注意しているか	17						
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	9	3	1	4		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	3		8		
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	15	2				
	18 事業所の支援に満足しているか	17					

\*1

放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発

\*2

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせが実施されることが想定されている。

96

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 4 年 2 月 26日

事業所名 運動療育スクールjump宇部ときわ校

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動内容により部屋を使い分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		なるべく個別指導できる体制にしている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ロッカー等、区切っていることはもちろん、用途に応じた使い分けをしている。玄関以外は段差がない造りにしている。	視覚支援による構造化をより進めていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、掃除・点検を行っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		月単位で事業所・個人の目標設定と振り返りを行っている。	社内研修にてPDCAサイクル勉強開催。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		1年に一度、アンケートを配布して公表・掲示・配布している。	定期的に面談、会議を行い資質向上を行う。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		1年に一度、アンケートを配布して公表・掲示・配布している。	定期的に面談、会議を行い資質向上を行う。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修の機会を定期的に設けている。	外部研修の多く参加予定。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		契約時だけでなく、定期的に要望を聞いて改善に努めている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシート及び運動能力指標に合わせた評価を行っている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		面談・契約・担当者会議で必要な情報を得ている。エンパワメントの観点から特性を生かした支援計画にあっている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援前に読んでいる。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		朝のミーティングで話し合い、共有している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		特性を配慮しながら、年齢も考慮し工夫して作成している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		特性、ニーズに合わせて個別指導と社会性を育む内容を組み合わせている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援前に打ち合わせを行っている。	併せて特性に対する理解の確認を行いようにする。
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ミーティングや記録等で情報共有を行っている。		

19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		デジタル媒体などで記録している。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6カ月に1度は、モニタリング、個別支援計画の更新を行っている。



関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行って(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)		○		
	24	子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			担当者会議を進学予定の小学校で行い、情報や今後の支援について共有検討を図っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			担当者会議や他事業所の行うセミナーに参加し助言を受けている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			保育所や幼稚園の先生とは送迎の際など様子を共有するようにしている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			担当者会議やブロック会議など参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			利用時、定期面談等で直接お話を伺っている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			面談などにより具体的にお話をして同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			受けた相談を記録して管理者に相談の後、利用の際に回答している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			受けた相談を記録して管理者に相談の後、利用の際に回答している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月お便りを発行して、活動内容や予定をお知らせしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			個人情報ガイドラインに基づき管理している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			なるべく視覚的に伝えている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		事業所内に掲示して周知している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を平日に定期的に行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメント時に必ず聞いている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		定期的に記録している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		社内研修並びに外部での研修に参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約時に説明をしている。	







保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和 4 年 2 月 26 日

事業所名 運動療育スクールjump宇部ときわ校 保護者等数(児童数) 13 回収数 12 割合

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10			2		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	9	1		2	先生が多く安心。 スタッフの職種、名前、 人数が分からない。	送迎、保護者対応 時に名札着用の徹
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10	1		1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	11			1	活動の内容などが分かるお便りがあるとイメージが湧く。	月単位で写真や活動内容の入ったお便りの作成配布。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	10			2		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	10			2		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	10			2		
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	11			1	畑や芋ほり、お出掛けなど体験、様々な活動を行っており嬉しい。	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	1		7		
保護者への	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	10			2		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	5	3	1	3		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	11	1			メールで様子の連絡があり有難い。	
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	9	1	2		送迎時にお話し頂いている。	

の 説 明 等	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	2	5	2	週1利用なのでない。 保護者間の関わりが	
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	11	1				
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10	2				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9		1	2		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	11			1		
非 常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	5	1		6		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5			7		
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	12				楽しみにしている。 ニコニコ通所している	
	23	事業所の支援に満足しているか	11	1			大満足している。	

\*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

\*2

児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援

\*3

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日

\*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

92 %